

METAL WORLD



国際金属労連 (I M F) 季刊誌



グローバル化がデンマークの 進むべき道

特集 12ページ

No.1
2004

必要な変革を進めるロシアの労働組合

2月に開かれたロシア最大の国際金属労連（IMF）加盟組織であるロシア鉱山・金属労組（MMWU）大会で、4年前の前の大会以降、変革が実施されたことが見て取れた。

ロシアの労働者は、市場経済へ移行するために非常に大きな犠牲を払っている。雇用削減と産業再編成によって、この巨大な国では地域間に大きな格差が生じており、旧共産主義体制を支える最強の柱だった社会福祉制度が崩壊し、数百万人が保護されていない状態にある。

このすべてにおいて、労働組合運動は自らの新しい役割を発見しつつある。少なくとも全国レベルでは、労働組合幹部は、富を再分配する手段としての団体交渉の中心的役割に目を向けている。個々の工場が何を生産すべきか、労働者の給与をいくらにすべきかを決定するのは、もはや産業省や労働省ではない。

労働組合は、与党の社会的機関であり伝送ベルトにすぎなかったが、労働者を代表する闘う組織に変わろうとしている。

まだ先は長い。このプロセス全体を慎重に方向づけ、地方レベル・工場レベルで組合幹部を関与させなければならない。そのためには、会費の配分に始まる組合機構の重要な変革も必要である。

MMWUは4年前に開かれた前回の大会で、その方向へ進む決定を下した。今、この連合団体は会費の4%ではなく26%を徴収しており、以前なら実施できなかったであろう活動を推し進める資源と力を得ている。

今回の大会で、これらの努力の成果を見ることができた。多くの若者が積極的に討論に参加し、自分たちの意見を率直に表明した。若者たちのうち何人かは、変革のペースについて批判的だった。彼らはやきもきしており、これまでよりも迅速に変革を実施するよう求めている。

会費の見直しは好ましい決定であり、この措置には激しい討論が必要だった。他の組合もあとに続くべきである。

IMFは3年前に独立国家共同体（CIS）諸国を対象とするプロジェクト事務所を開設した。この地域の新しい金属労組はIMFに加盟したばかりで、いずれもっと多くの組合が加盟するだろう。CIS諸国で実施すべき活動は、まだ山積している。そのため、IMFは引き続きこの地域に駐留し、加盟組織と協力することにしている。



マルチェロ・マレンタッキ
IMF書記長
mmalentacchi@imfmatal.org

「メタル・ワールド」発行人：国際金属労連（IMF）

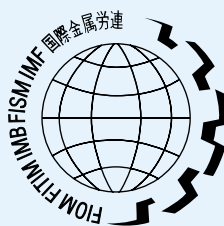
IMF住所：
P.O.Box 1516
54 bis, route des Acacias
CH-1227 GENEVA
Switzerland
Tel:++41 22 308 50 50
Fax:++41 22 308 50 55

IMFホームページ：
www.imfmatal.org

会長：
ユルゲン・ペータース

書記長：
マルチェロ・マレンタッキ
mmalentacchi@imfmatal.org

編集長：
ジェスパー・ニルソン
jnilsson@imfmatal.org



ニュース編集長：
キャサリン・リバス
klivas@imfmatal.org

グラフィックデザイン：
イングバー・ニルソン
マッツ・W・ニルソン

レイアウト：
ジェスパー・ニルソン
ATARロトプレス

印刷：ATARロトプレス

メタル・ワールドは年4回
英語で発行されます。

記事の意見は必ずしも
IMFの見解とは限りませ
ん

日本語版翻訳・発行者：
全日本金属産業労働組合協議会
（IMF-JC）

発行日：
2004年6月4日

目次

2004年・No.1



IMF ニュース

ムンバイで世界社会フォーラム開催

インドのムンバイで開かれた第4回世界社会フォーラムに、13万人を超える参加者が集まった。今回もまた「もう一つの世界が可能だ」をスローガンに掲げ、現在の世界が直面する問題をテーマに、6日間にわたってパネル・ディスカッション、セミナー、ワークショップを実施した。IMFも参加した。

6



特集

グローバル化がデンマークの進むべき道

フレディー・スミットは、デンマークのネリソンピュにあるポンプ・メーカー DESMI の熟練金属労働者である。同社は常に可能な限りコスト削減に努めており、全世界で数百の下請業者を利用している。

12



インタビュー

鈴木勝利氏

鈴木勝利全日本金属産業労働組合協議会 (IMF-JC) 議長が、日本の現在の経済情勢と過去最高の失業率とをもたらしたメカニズムについて説明する。同氏は、日本が定年という概念を捨てるべきことも主張する。

18



IMF プロフィール

クラウディア・ラーマン

クラウディア・ラーマンIGメタル国際書記は、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカで組合強化プロジェクトに関与している。「国際問題は全国組合で十分に優先されていない」と彼女は言う。

24

ピープル 17 ワールドワイド 22 カレンダー 23

IMF アクション・プログラムの見直し

私は国際金属労連(IMF)アクション・プログラム委員会(11ページを参照)が実施中の見直し作業に加わっているため、アクション・プログラムを全般的かつ仔細に調べ、その構造について討議することもあれば、パラグラフや言い回し、言葉の正確な意味について相談することもある。アクション・プログラムの全部または一部を利用したり、実施しようと努力したりしている私たち(読者諸氏を含む)全員が、このプログラムについて複雑な感情を抱いていると思う。それはもっともなことである。私たちは各自の文化的・政治的背景によって、この部分は弱い、この部分は強い、ここは秀逸で的を射ている、などと感じるだろう。セクション「x」は実施しやすいと考える加盟組織もあれば、まずパラグラフ「y」の実施を目指す組織もあるだろう。いずれにせよ、IMFにとってのアクション・プログラムの非常に大きな価値や、プログラムを支える活動を容易に過小評価してしまうおそれがある。私たちはアクション・プログラムの有難みを忘れがちで、その長所よりも欠点に目を向けることが多い。最初の委員会で、他のグローバル・ユニオ

ン・フェデレーションの活動をよく知っているIMF加盟組織から参加した代議員が、励みになる刺激的な意見を述べた。「IMFアクション・プログラムはユニークだ。このプログラムは実地に役立ち、IMFの予算と活動とを結びつける。アクション・プログラムのおかげで、IMFは非常に透明な組織になっている」

以下の各ページで、いつものように、アクション・プログラムに従って実施された活動の実例を紹介する。プログラムを書き直す理由はないが、徐々に見直し、私たちの活動にとって非常に有意義な内容に保っておく必要がある。アクション・プログラム最新版は、来年のウィーン大会で発表される予定である。



ジェスパー・ニルソン
編集長
jnilsson@imfmetal.org

加盟組織

家庭用パソコンの普及を推進

ロンドン(イギリス): 運輸一般労働組合は、家庭でのコンピューター利用者数を増やす政府のイニシアティブについて報告している。政府の計画によると、家庭用パソコンの取得を希望する労働者は、最高で小売価格の40%の値引きを受けられることができる。

同労組の話では、官民両部門の利用者は、インターネット・プロバイダーに加入して税額控除を受けられるようにすることを奨励されている。この免税によって、それらの企業の労働者は、家庭用パソコン機器を大幅な割引価格で購入することができる。

同様のイニシアティブは、コンピューター/インターネット利用率が最も高い国と考えられているスウェーデンで大成功を

収めた。イギリス政府は、コンピューター・アクセスによって個人が新しい技能を身につけたり関心を持ったりし、コンピューター



イギリスのコンピューター技能を高める必要がある。一利用の拡大が経済全体を後押しする、と考えている。

イギリスでは全国の地域社会にオンライン・センターがあり、人々がコンピューターやインターネットの使い方を覚えられるよう手助けしている。

ベラルーシで抑圧が強まる

ミンスク(ベラルーシ): 2003年12月に開かれた国際金属労連(IMF)加盟組織であるベラルーシ自動車・農業機械労組(AAM)の臨時大会で、同労組のアリクサンドル・ブクボスタウ会長が追放された。この事態は、アレクサンドル・ルカシェンコ・ベラルーシ大統領の指示によるものと思われる。

使用者側は大会代議員の選出に介入して当時の指導部の敵対者を支持しただけでなく、どうやら大会にも出席し、「使用者側の」候補者が旧指導部に反対票を投じたかどうかチェックしたようである。公開投票(規約によれば非公開で実施すべきだった)で、代議員の過半数が解任に賛成した。

「指導部への異議申し立ては、どの民主的組織でも通常の手

続きだ。しかし、この臨時大会に至ったプロセスとその結果は合法的なものかどうか疑わしい」と、マルチェロ・マレンタッキIMF書記長は述べた。

大会後、IMF執行委員会メンバーでもあるブクボスタウ氏とその支持者らが、新しい「独立」AAMを設立した。当局は同労組の登録を拒否すると予想されるため、現在、ベラルーシの別のIMF加盟組織である無線・電子産業労組(REI)との協力を目指している。

国際社会は、ベラルーシにおける抑圧に関して懸念を強めている。国際労働機関(ILO)はベラルーシでの労働組合権侵害を調査しており、欧州委員会は同国における中核的労働基準の侵害に関する調査を開始する予定である。

IG メタルが賃金協約を締結

フランクフルト(ドイツ): 組合員255万人を擁するドイツの金属労組IGメタルと金属・電機産業の使用者は、2月12日に新しい賃金協約を締結した。これによって、数万人の金属労働者が全国で実施していた一連の警告ストが終結しただけでなく、全面ストの可能性もなくなった。

新しい26カ月間の協約はバーデン=ビュルテンベルクを対象に取り決められ、2004年3月から2.2%、さらに2005年3月から2.7%賃金を引き上げることを定めていた。当初、同労組は12カ月間で4%の賃上げを要求し、使用者側はまず27カ月間で1.2%という数字を提示した。

交渉の主な障害は、使用者側が週労働時間を割増賃金なしで35時間(東部では38時間)から40時間に延長するよう圧

力をかけてきたことだったが、IGメタルは週35時間制を放棄する案を断固として拒否した。ベルトルド・フーパーIGメタル副会長は、この要求を「挑発」と呼び、「労働組合は週労働時間を35時間に短縮するために闘ってきた。週40時間に逆戻りすれば、製造部門で少なくとも40万人分の雇用が犠牲になるだろう」と主張した。

しかし同労組は、必要があれば特定の企業で延長労働時間を適用できるようにすることに同意した。ただし、そのためには労働者と経営陣が合意し、標準賃金を支払わなければならない。

2月29日までには、ドイツの残りの州全体で金属・エンジニアリング産業を対象に同様の協定が締結されていた。

IAM が裁判所の裁定を不服として上訴へ

アメリカ: 全米機械工・航空宇宙労組(IAM & AW)とUSエアウェイズとの外部委託紛争で、会社側による上訴を受けて、3人の裁判官で構成される審査員団は、USエアウェイズがメンテナンスを非組合施設に外部委託することを禁止する差し止め命令を破棄した。

上訴裁判所は拘束力のある調停によって紛争を解決すべきだとの裁定を下したが、IAM & AWとUSエアウェイズとの労働協約の規定では、そのような外部委託が禁止されている。

IAM & AWは、この最新の決定に関して上訴裁判所に不服を申し立てることにしている。

女性の輪を広げるキャンペーン

オンタリオ州(カナダ): カナダ自動車労組(CAW)は、前回のオンタリオ州選挙に先立って、女性たちに、女性に最も関係の深い問題に関して最善の政策を公約する候補者に投票させるキャンペーンを開始した。このキャンペーン

は、オンタリオ州に変化を求める雰囲気が見られる状況を利用した。その結果、平等問題を優先する政党に政権が移った。同労組にとって、このキャンペーンの主要な成果は新しい女性活動家を動員したことだった。

ISTC 執行委員会が合併について合意

ロンドン(イギリス): イギリス鉄鋼労連(ISTC)執行委員会と全国ニットウェア・履物・アパレル産業労組(KFAT)執行委員会は、両組織の合併を勧告している。

この勧告は、今春に組合員投票にかけられる。新組合は、まだ名称は決まっていないが、組合員数約4万5,000人となる予定である。

世界社会フォーラムのIMF セミナーで活発な討議

全世界：1月16～21日にインドのムンバイで開かれた第4回世界社会フォーラム(WSF)に、13万人を超える参加者が集まった。今回もまた「もう一つの世界が可能だ」をスローガンに掲げ、現在の世界が直面する切迫した問題をテーマに、6日間にわたってパネル・ディスカッションやセミナー、ワークショップを実施した。

WSFの目標は、背景を異にする多様な市民社会セグメントを代表する組織を集め、不平等を批判したり、経験を交換したり、現行のネオリベラル的グローバル化の代替案を出したりする機会を与えることである。

国際金属労連(IMF)は、これまでにブラジルのポルトアレグレで開かれたすべてのWSFに参加した。「このフォーラムの議題は、第1回以降さらに充実しており、今では金属労働者に関係のある多くのテーマが盛り込まれている。しかし、これまでのところ国際労働組合運動の貢献はWSFの討議に大きな影響を及ぼしておらず、非常に多様な組織が参加する中で労働者の認知度はごく限られている」とブライアン・フレデリクスIMF書記次長は言う。

したがって、IMFがムンバイでのフォーラムに参加する主要な目標は、以下のとおりだった。

金属労働者の意見を主張し、その闘争に関する情報を広めること。

社会運動の間におけるより幅広い討論の中で、労働者の関心事をもっと大きく取り上げること。

潜在的な同盟者に、代替的経済政策に関する私たちの具体的な提案を示すこと。

基本的価値観を共有する組織との対話を深め、私たちの目標達成のために支援を得ること。

1月18日、IMFは「持続可能な開発のための雇用」に関するセミナーを開催した。このセミナーには約250人の代議員が出席し、そのほとんどが労働組合活動家だったが、社会運

動やNGOからも参加者があった。セミナーの焦点は、先進国・発展途上国の両方で労働組合の基本的目標とされる雇用創出を実現するための実行可能な戦略だった。

ワークショップ形式を採用し、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、北米、南米の15カ国以上から参加した人々とインドからの数人の参加者が活発な討議を展開できるようにした。

南北の国々で雇用を促進し、一つの国における雇用創出や国内の特定地域における雇用創出が他の国・地域に損害を与えないようにするために、首尾

一貫した戦略を実施する必要があることが強調された。労働組合が組合員の利益を本当に保護するには、各国政府と使用者に対するグローバルな戦略が必要である。この戦略には次の要素を含めなければならない。

政府のマクロ経済政策に関する要求



IMF セミナー

写真：IMF



IMF が促進した労働組合集会

写真：M・エンデ



これも集会の一コマ

20カ国から30団体を超える加盟組織が参加

以下の組織をはじめとする約30団体のIMF加盟組織が、第4回世界社会フォーラムに参加した。

インドの全IMF加盟組織

バングラデシュの全IMF加盟組織

ネパール工場労働会議(NFLC)

スリランカの全IMF加盟組織

全日本金属産業労働組合協議会(IMF-JC)

オーストラリア製造労組(AMWU)

韓国金属産業労組連盟(KMWF)

スウェーデン金属労組

デンマーク産業中央組織(COインダストリ)

ドイツIGメタル

フランスFTM-CGT

イタリアFIOM

イタリア金属労連(FLM)

スペイン労働者委員会金属労連(FM/CC.OO.)

南アフリカ全国金属労組(NUMSA)

カナダ自動車労組(CAW)

ブラジル全国金属総連合(CNM/CUT)

IMF イニシアティブ

教育・訓練への適切な投資

労働者・労働組合の基本的権利を尊重するという条件に基づいて中小企業における雇用創出の実施を保証するための措置

団体交渉は、労働組合が上記の目標を達成するための主要な手段であり、中核的な活動である。しかし労働組合は、伝統的方针に従って企業や労働協約に焦点を当てると



集会に参加したIMF代議員たち

ともに、社会全般においてより広い責任を負い、提携を確立する必要がある。

セミナーの最後に、現在世界各地で労働者が同様の問題に直面していること、労働組合はより広範な社会運動の同盟者とともに、共通の目標に基づく一新された効果的な形態の連帯を見つける責任を負っていることについて、評価が一致した。

これは組合にとって、国内レベルと国際レベルの両方で分裂を克服し、共通の行動を調整する責任を意味する。労働者は、自分たちの雇用を守るには、雇用が他の国に移動するのを防ぐ保護主義的措置を実施するのではなく、他の国々の雇用を守るしかないことを理解しなければならない。労働組合は、他の社会的行為者としてよりよく交流する方法を学ぶ必要がある。ある国の労働者の団結は他の国々の労働者にとって

も不可欠であるため、ここでもまた団結の強化が労働者の最優先課題である。

IMF 代表団は一つのチームとして、



文化行事 インドのフォークダンスに参加した。T・ディバディーナム IMF 南アジア地域代表は、職場の安全衛生に関するセミナーで主要講演者を務めた。

国際運輸労連(ITF)がIMFおよびその他のグローバル・ユニオン・フェデレーションとともに1月19日の午後連帯の結集をテーマに集会を開き、これによってWSFにおける労働者の認知度が高まった。この集会には、国際・国内組合組織から多くの講演者が集まった。参加者1万人のうち1,000人が、IMF加盟組織(主にインドの組織)から参加したと推定される。南アフリカ全国金属労組(NUMSA)のシルムコ・ノドワング IMF 執行委員も集会で講演し、南北間の連帯を結集することの必要性を強調した。

IMF アクション・プログラムは、社会運動とのより幅広い提携の確立を戦略目標に掲げている。「WSFは伝統的な社会・政治組織と違って、より若い世代の人々を参加させ、社会的に無視された集団や組織化されていない集団に発言権を与え、組織労働者が社会の各部門との失われた連帯を立て直す機会を提供することに成功しているようだ」とブライアン・フレドリックス書記次長は述べている。

IMFは適切な社会運動と交流するために、さらなるイニシアティブを取る予定である。

IMF がメキシコ・プロジェクトを開始

メキシコシティー(メキシコ): 国際金属労連(IMF)は、フィンランドの加盟組織であるフィンランド金属労組および俸給従業員労組(TU)とともに、メキシコでパイロット組織化プロジェクトを開始した。このプロジェクトの目的は、一定数の工場・企業で労働者を組織化するとともに、将来の包括的組織化プロジェクトに適したパートナーを確認することである。

「メキシコは、基本的労働権・労働組合権の侵害で悪名が高い。これはマキラドーラ輸出加工区だけでなく、他の企業の大多数にも当てはまる。この非常に重要(かつ困難)なプロジェクトは、この状況のある程度は矯正しようとする試みだ」とマルチェロ・マレンタッキ IMF 書記長は説明する。

メキシコの労働組合情勢は、内部対立が発生したり、企

業の支配下にある組合が経営側と法定水準以下の賃金を取り決めたりしているために紛糾し、妨害されている。早ければ2005年に実施される労働法改革によって、メキシコの状況はさらに複雑になっている。この法改革は、うまくいけば労働者の団結権を補強する可能性があるが、悪ければ組合分裂への道を開くおそれがある。

IMFは、100万人を超える金属労働者をIMFに組織化することを目標に、2000年にメキシコに事務所を開設した。3組合がIMFに加盟し、現行加盟組織7団体がIMF 国別協議会を設置した。

「IMFはメキシコで評判がよく、長期目標掲げる真剣な組織とみなされている。このプロジェクトは、私たちの関与の必然的継続だ」とマレンタッキ書記長は言う。

ラインメタルで枠組み協約

ドイツ/スイス：ラインメタル経営陣とラインメタル欧州労使協議会、それにマルチェロ・マレンタッキ書記長を代表とする国際金属労連(IMF)は、「ラインメタルにおける社会的責任の原則」に署名した。これはIMFが締結した7番目の国際枠組み協約(IFA)である。

自動車部品、兵器、エレクトロニクス製品を製造するドイツのメーカー、ラインメタルのIFAは、全世界20カ所を超える生産施設で働く2万5,000人の従業員を対象としている。

この協約は、同社が社会的責任を負い、国際労働機関(ILO)中核的労働基準を支持・遵守することを認めている。

このIFAは、ILO条約第87号(結社の自由)および第98号(団体交渉権)を尊重することを規定している。また、児童労働・強制労働の禁止、無差別待遇、報酬、安全衛生、労働時間も取り扱っている。

同様に非常に重要なのは、請負業者が各自の企業方針でこの宣言を考慮に入れることを同社が「支持し、明白に奨励



ラインメタルでの組立作業(ドイツ)

写真：ラインメタル

する」ことである。ラインメタルは「これを相互関係の有利な基礎とみなす」。

注：金属産業初の枠組み協約は、2001年12月にメルローニ・エレクトロドムスティチで締結

された。その後、IMFはフォルクスワーゲン、ダイムラークライスラー、レオニ、GEA、SKF、そして今回ラインメタルと枠組み協約を結んだ。まもなくポッシュの協約がまとまる予定である。この件に関する最新情報は、IMFニュース・ブリーフスがwww.imfmetal.orgを参照のこと。

ラインメタルの主要製造工場

ラインメタルは現在、ドイツ、オーストリア、フランス、イタリア、スペイン、スイス、アメリカ、ブラジルに進出している。部門別に分類した同社の主要工場は以下のとおりである。

自動車部品：

コルベンシュミット・ピエルブルク AG、デュッセルドルフ、ドイツ
 KS アルミニウム - テクノロジー AG、ネッカーズルム、ドイツ
 KS グレイトラゲル GmbH、セント・レオン - ロット、ドイツ
 KS コルベンシュミット GmbH、ネッカーズルム、ドイツ
 MSI モーター・サービス・インターナショナル GmbH、ネッカーズルム、ドイツ
 ピエルブルク GmbH、ノイス、ドイツ
 ピエルブルク S.a.r.l.、バス - ハム(ティヨンビル)、フランス
 ソシエテ・モゼラーネ・ド・ピストン S.A.、バス - ハム(ティヨンビル)、フランス
 ピエルブルク S.p.a.、ランチアノ、イタリア
 カルブレイバール S.A.、アバディアーン、スペイン
 カール・シュミット・ユニシア・インク、マリネット、アメリカ
 KS ピストース Ltda.、ノバ・オデッサ、ブラジル

兵器 / 防衛機器：

マウザー・ベルケ・オベルンドルフ・バッフェンシステム

GmbH、オベルンドルフ、ドイツ

ニトロケミー・アッシャウ GmbH、アッシャウ、ドイツ

ラインメタル・デテック AG、ラーティンゲン、ドイツ

ラインメタル・ランドシステム GmbH、キール、ドイツ

ラインメタル W & M GmbH、ウンターリュス、ドイツ

STN ATLAS エレクトロニク GmbH、プレーメン、ドイツ

エルリコン・コントラベス AG、チューリッヒ、スイス

エルリコン・コントラベス・ピロテック AG、チューリッヒ、スイス

エレクトロニクス：

アデイトロン AG、デュッセルドルフ、ドイツ

ヒルシュマン・エレクトロニクス GmbH & Co. KG、ネッカーテンツリンゲン、ドイツ

プレー・ベルケ GmbH & Co. KG、バート・ノイシュタット、ドイツ

ヒルシュマン・オーストリア GmbH、ランクベイル、オーストリア

注：この表は、同社が進出しているすべての国、同社のすべての製造工場を示しているとは限らない。

出所：同社ウェブサイト

マーレ・ブラジル子会社の争議が解決

サンベルナルド・ド・カンボ(ブラジル): 11月と12月にマーレのブラジル子会社メタル・レベで9人が不当解雇され、抗議行動が実施されたが、同社は最終的に交渉のテーブルに戻り、解雇された労働者全員が復職するか、金銭による和解を選んだ。

争議の発端は、サンベルナルド・ド・カンボにあるマーレのメタル・レベ工場で、会社側が正当な理由を合法的に確認せずに3人の労働者を解雇したことだった。労使協議会は解雇された従業員の復職を要求したが、経営側はそれを拒否し、続いてストが実施されると、これに対抗して労使協議会の労働組合幹部6人を解雇した。

メタル・レベ労組が加盟する全国金属総連合(CNM/CUT)によれば、労働者の抵抗と無視できない国際連帯の結果、ついに会社側は屈服した。

12月の国際金属労連(IMF)中央委員会に出席した代議員は、ドイツ・シュトゥットガルトにあるマーレ本社の経営陣に抗議の手紙を送り、労働者の復職を強く要請した。マーレのドイツ・欧州労使協議会も圧力をかけ、ドイツの12カ所のマーレ工場から労働者がシュトゥットガルトに集まり、この多国籍企業の本社前で抗議の集会を開いた。

自動車・エンジニアリング産業向けの部品メーカーである同社に対し、ダイムラー・クライスラーおよびフォルクスワーゲンと締結されたIMF国際枠組み協約に、サプライヤーに労働者・労働組合の権利の尊重を保證するよう求める規定があることも指摘した。



非現業労働者に関するフォローアップ

ジュネーブ(スイス): 昨年11月にジュネーブで開かれた非現業労働者の組織化に関する第2回セミナーの報告書が発表された。このセミナーには国際金属労連(IMF)加盟組織から約50人の代議員が参加し、報告書には13本のプレゼンテーションがすべて収録されている。さまざまな発表の中で多くの主要テーマが提起され、続いて討議が行われた。例えば、組合機構、経歴開発・訓練、コミュニケーション、個別代表と集団代表、メンバー向けサービスの提供方法といったテーマである。

この報告書『非現業労働者の組織化 フォローアップ



(Organising Non-Manual Workers - Follow-up)』は英語版、フランス語版、ドイツ語版があり、IMFウェブサイトの「出版物(Publications)」コーナーでダウンロードすることができる。ジュネーブのIMF本部にハードコピーも注文可能。2003年1月に発表されたシリーズ第1号の報告書も、このウェブサイトで入手できる。

イビコ・ポルトガルで集団解雇

リスボン(ポルトガル): 金属・関連産業労組(SIMA)の報告によれば、イビコ・ポルトガルで労働者の諸権利が侵害されている。

同社は法的手続きを無視して集団解雇を開始し、大量の労働者を個別に解雇することによって集団解雇を隠蔽しようとしている。

国際金属労連(IMF)はイビコ経営陣への抗議文の中で、同社が組合加入労働者とSIMA代表だけを解雇していることを指摘し、その意図は「明白な嫌がらせである。労働者には自分が選んだ組合に加入する権利がある」と述べている。

ブルガリアで労働災害

ソフィア(ブルガリア): 国際金属労連(IMF)加盟組織の「メタリシー」労組(METALICY)の報告によれば、ブルガリア最大の金属会社クレミコプツィに雇用される労働者は、1999年に同社が民営化されて以来、ますます危険な労働条件に直面するようになっている。職場の安全衛生を保護するための条件は尊重されていない。頻りに事故

が発生し、1月には4件の死亡事故が報告された。

昨年、クレミコプツィ前でストが実施され、地方工場組合の会長と執行委員全員が解雇された。マルチェロ・マレンタッキIMF書記長は、クレミコプツィ経営陣への抗議文の中で同社に対し、安全衛生単位の更新、未払い給与の支払い、解雇の中止などの要求に応じるよう強く催促した。

P & H ミネプロで争議が解決

オーストラリア：オーストラリア製造労組(AMWU)の報告によれば、ジョイ・グローバル社の一部門であるP & H ミネプロの争議が、組合員の満足のいくように解決した。

経営側は組合側との協定締結を拒否しており、従業員60人をロックアウトし、個別労働契約への署名を迫っていた。会社側の目的は、生産施設の閉鎖に先立って、生産部門(製造工場)の労働者と採鉱現場に直接メンテナンス・サービスを提供する労働者の両方について、雇用条件を引き下げることであったと思われる。

製造工場閉鎖の決定は撤回されていないが、同労組は現場労働者の現行条件を維持するとともに、生産部門の組合員の解雇手当増額を確保することができた。また、現場労働者

を対象とする新しい協約をめぐる交渉も進展している。

AMWUスポークスパーソンは、「私たちが『ジョイ・グローバルのように攻撃的な多国籍企業に雇用される労働者のために、可能な限りの成果を達成したい』と集団で考えるなら、労働者間で接触や情報交換を活発にしなければならない」と述べた。同労組は、この争議のことを加盟組織に知らせたIMFと、ピケ・ラインのP & H ミネプロ労働者に連帯メッセージを送ったアメリカの地方組合に感謝した。

ジョイ・グローバル従業員のほとんどが米国事業で働いており、うち3分の2が組合に加入している。

同社は鉱石・鉱物抽出用の露天掘り装置を取り扱っている。

ファルコンブリッジで勝利

オンタリオ州(カナダ)：オンタリオ州サドベリーにあるファルコンブリッジで働く約1,100人のカナダ自動車労組(CAW)組合員は、数々の主要な雇用保障問題、賃金・年金引き上げを勝ち取った末、3カ年労働協約を承認した。

この承認投票の結果、サドベリーにある同社の採鉱所、選鉱場、精錬所で3週間前から続いていたストライキが終結した。

この協約は、同社が開発する新しい現場をすべて労働協

約の対象に含めること、新規プロジェクト実施に当たっては契約労働者ではなく組合員だけを利用することを定めている。また、賃上げ、生計費手当の引き上げ、年金増額、2,000カナダ・ドルの協約締結手当、1,000カナダ・ドルの操業開始手当も盛り込まれている。

3年前には、協約を締結するために7カ月間にわたってピケを張らなければならなかった。

IMF大会

2005年ウィーン大会へ向けてスタート台に立ったIMF

ジュネーブ/ウィーン：開催まであと1年と少しになり、巨大なジグソーパズル「2005年国際金属労連（IMF）世界大会」の準備が始まった。大きくてはっきりした形のピースもあれば、小さくてまだ曖昧なピースもある。すべてのピースがはめ込まれたとき、私たちは2005年5月22日を迎える。最初の大会セッションが始まろうとしており、加盟組織200団体から750人の代議員が集まっているだろう。

「今から準備を始める必要はないように思えるかもしれない。だが、これが大規模な行事であり、さまざまな言語が関与することを考えれば、これは必要な作業だ」とIMF大会計画チーム責任者の鎌田普氏は説明する。

第31回IMF世界大会を主催するのは、ルディ・ニユルンベルガー会長率いるオーストリアのIMF加盟組織、金属・繊維労組（GMT）である。当然、すべての計画作業をGMTと緊密に協力しながら実施しており、大会前および大会開催中にウィーンで多くの具体的な任務・責務を処理するのもGMTである。すでに進行中あるいは準備中の作業として、会場の予約、ホテルの確保、通訳・配膳業者との契約、機器の賃借、開会式の準備、基調演説者の招待が挙げられる。

並行して、二つの重要な大会委員会も作業を開始した。

アクション・プログラム委員会

この委員会の任務は、現行プログラムを査定したうえで、慎重に編集することである。「新しいプログラムを起草しようというのではなく、達成された目標や古くなった文章を明らかにし、原文を更新することが目的だ」とマルチェロ・マレンタッキIMF書記長は説明する。

動議・規則委員会

この委員会は特に二つの任務を担っている。第一に、IMF執行委員会で女性代表を改善する方法を調べること、第二に、現行の会費・投票制度に代わる制度を提案することである。

新しい会費・投票制度に関する問題は、すでに2002～2003年に専門作業部会で取り上げた。その目的は、この



次期IMF大会の会場となるウィーンのオーストリア・センター

写真：Cichocki

作業部会に、ケープタウンで開かれた昨年の中央委員会に案を提出させることだった。この規則に取り組む任務が、動議・規則委員会に委ねられた。「これは扱いにくい微妙な問題であり、多くの加盟組織に大きな影響を及ぼす。だが、討議は行き詰まっていない。緩慢ではあるが着実に前進しており、さまざまなモデルについて討議している。私は成果が得られると信じている」とマルチェロ・マレンタッキ書記長は述べる。

IMF書記局だけでなく、オーストリアのGMTと各委員会の代議員も大会に向けて努力している。まもなく、すべてのIMF加盟組織に「加盟組織報告」の提出を求める予定である。この報告には、現行IMFアクション・プログラムの実施と、各組合における重要な事態の展開を盛り込む必要がある。IMFは、4月に通達を送付すれば6月には加盟組織から報告書が届いているだろうと期待している。「締め切りを守ることが私たち全員にとって大切だ。文書を編纂・編集して翻訳したうえで、レイアウトを決めて印刷し、時期が来れば配布する必要がある。遅延はそれ自体が迷惑なだけではない。そのために費用がかさむ場合もある」と鎌田普氏は言う。

旗や花、開会、講演者も重要だが、大会を形成するのは内容と討議である。IMF書記局は現在、IMF執行委員会に提出する大会テーマ案を作成している。「導きの星となる討議の焦点が必要だ。慎重に選んだ問題を中心に討議を進めれば、代議員たちに帰国後『実に素晴らしい大会だった！』と考えてもらえるだろう！それが私たちの目標だ」とマルチェロ・マレンタッキ書記長は締めくくった。



アクション・プログラムの書き直しではなく見直し

グローバル化が デンマークの進むべき道

フレディー・スミットは、デンマークのネレソンビュにあるポンプ・メーカー DESMI の熟練金属労働者である。同社は常に可能な限りコスト削減に努めており、全世界で数百の下請業者を利用している。古くからの北欧の伝統に従って、全員が労働組合に加入している。

文：モーゲンス・ハブソー・ピーターセン

写真：クルト・ヨハンセン

フレディー・スミットの目覚まし時計が鳴るとき、外はまだ暗い、39歳の機械工にとって、また日勤の1週間が始まる。彼は自転車で勤務先の DESMI へ向かい、午前6時にタイムカードを押すようにしている。労働者たちは、帰宅する夜勤組と少しおしゃべりしてから仕事場へ向かう。機械は温まっており、作業を進める準備ができています。

ネレソンビュは、ユトランド半島の北部にあるオルボア市の一部を構成している。この地域は以前、さまざまな点で周辺に位置することが特徴で、デンマーク平均よりも失業率が高く、生活水準が低かった。雇用の大部分が農業部門から直接、あるいは加工産業を通して得られていた。

その現実とは過去35年間に様変わりした。人口16万人のオルボアは、デンマーク第4の都市で地域の中心地になっており、産業だけでなく教育を受けようとする若者を引きつけている。フレディーはフレデリクスハウン出身で、妻のハンネは学校教育を受けるためにフレデリシアからオルボアへやってきた。北ユトランド地域では、5人に1人が製造業で働いている。

フレディーは聞こえのいいことを言う人間ではない。北ユトランド人らしく、ちょっと微笑んで反応を示すだけで、必要以上の説明はしない。いつ行動し、いつ行動すべきでないかを伝えるだけである。

この穏やかな性質は彼の仕事に

も表れている。CNC（コンピューター数値制御）機の前に座った彼は、工作物を取り替えるときも、新しい任務に備えて機械を設定するときも効率的に働く。必要以上の動きはなく、機器を回しすぎることもない。設定と入力を終え、プロセスが始まってすべてが順調に稼働すれば、作業用の工具が上下左右に動いて金属を加工している間、横に立っている同僚にちょっと言葉をかける。

CNC機を操作している他のすべての人々と同様に、フレディーも個別出来高払いで働いているので、自分の仕事を効率的に編成すれば賃金に影響を及ぼすことができる。

将来の保証はない

DESMIの主要な活動は、食品・加工産業や海洋・沿岸部門用のポンプ、変速機、油除去装置の製造である。

国際競争が原因で、150年に及ぶDESMIの歴史も安定の保証にはならない。外圧が強まっており、同社は収支を合わせるために従業員を解雇せざるをえず、下請業者の数を増やしている。原則は、販売部門を生産部門の顧客とみなし、最終製品の構成要素を同じ質で、しかもより低価格で提供する会社がほかにあれば、その外部サプライヤーを優先することである。したがって、今日フレディーが実施している仕事の競争相手は、ポーランドや中国でCNC機を操作しているかもしれない。

このようにDESMIは、こと製造

デンマークに関するデータ

人口：540万人
 首都：コペンハーゲン
 IMF加盟組織：デンマーク産業中央組織
 (COインダストリ) デンマーク金属労組



「私にとって、仕事は特権だ」
と39歳のフレディーは言う。

特集

デンマーク



オルボアは北ユトランド地域の中心地である。

会社に関しては実によくデンマークを代表している。デンマークは非常に小さく、かつ開放的な国であるため、国際競争は常にデンマークの現実の一部となっている。目新しい展開は、今では輸送ネットワークが十分に発達し体系化されていることであり、以前と違って時間や距離はもはや問題ではない。

フラットな組織構造

デンマークの企業運営方法の特徴を一つ強調するとしたら、デンマークの組織構造がかなりフラットである点を挙げなければならないだろう。他の国々では管理者が検査員をチェックしているが、デンマークは仕事に対する責任の委譲を推し進めている。

DESMIでは、これは「工場現場に」自主管理グループがあり、自分たちの仕事を編成している点に反映されている。職長は管理するためにはなく、指導するためにいる。

フレディーは成人後ずっとDESMIで働いてきた。職業学校へ通い、旋盤の仕事が気に入ったので、見習いとしてDESMIに入った。

「母はたぶん私に高校のような上級中等教育を受けさせたかったのだろうが、学校へ行くのはあまり楽しくなかった。算数は得意だったが、それ以外の科目には大して興味がなかった。それで初級中等教育の第10学年で技能工になった」とフレディーは言う。

彼と弟はフレデリックスハウんで母親に育てられた。父親のことはまったく知らなかった。フレディーが15歳のとき、母親に新しい男友達ができただが、その人は父親代わりにはならず、大人の友人という感じだった。フレディーは、学生時代と見習い時代には母親と暮らしていた。母親は彼に、家賃を払って自宅で暮らすか、貯金して自分の家を買うかを選ばせた。そして、見習いを終えたとき、彼は分譲フラットを購入するに十分な資金を蓄えていた。2001年から、その家で妻のハンネ・クリステンセンと2人の娘、セシリー（11歳）、クリスティン（8歳）と一緒に住んでいる。

高額の税金

スカンジナビア型の社会では、公共分野で数多くのサービスを提供することが決定されているため、全体的な税負担率が高く、およそ50%である。これは医療、教育、社会保障に、そして、ある程度まで年金にも当てはまる。

近年、特に年金制度はより個人的な問題になり、年金制度に加入する人々が増えている。以前なら、個人年金制度に加入するのは上位のホワイトカラー労働者だけだっただろう。これは今や資本市場において年金基金が断然大きなプレーヤーであることをも意味している。

フレディーが働いているDESMIでは、所有権が主として同族所有の株式会社から年金基金グループに移っている。

特集

デンマーク

デンマークの伝統・制度では、企業は従業員に対して控えめな義務を負っているにすぎない。つまり、企業にとって従業員を解雇するのは比較的簡単であり、その場合、従業員は公的資金を手厚く供給される失業保険制度によって保護される。この制度の長所は、労働力がかなり弾力的であること。短所は、企業が雇用の継続に、あまり責任を負わず、個々の従業員の身分が保障されないことである。

自由貿易への依存

デンマークは貿易が盛んな小国である。つまり、この国は大量の商品を輸出入している。したがってデンマークは、世界の自由貿易に依存しており、特に欧州連合と他のヨーロッパ諸国はデンマークにとって最大の貿易相手となっている。

DESMIでは、従業員が自社のグローバルな性質を大いに意識している。金属労組に所属する職長で、23年間にわたってDESMIで働いているペア・オッテセンは言う。「私たちは当社の発展をしっかり見守っている。何と云っても、私たちの職場だから。ポーランドや中国など他国の低賃金は、もちろん心配だ。専門化によってトップを守る必要がある」

同社の労働環境に関して、ペア・オッテセンは次のように説明する。「状況が厳しくなっている。多方面から圧力が加わっている。それでもなお、いい職場だ。きちんと仕事をしていれば、比較的安心していられる。これまでに何度か、経営陣が特別な措置を実施する意向を示したことがあった。ワークシェアリング制度を実施したことも2、3回あったが、その一方で在庫品を確保するために生産するときもある。特別な努力が必要なときには、私たちは残業もいとわない」

同社では全員が組合に入っている。これは大して議論の対象になっていない。とにかくそういうものなのだ。また、安全性の問題も非常に深刻に受け止められている。過去15年間、DESMIの生産現場では重大な労働災害が1件も発生していない。

フレディーの1日の仕事がほぼ終わった。彼はタイムレコーダーで退出時間を記録してシャワーを浴び、いつものように、子どもたちや妻と一緒に過ごすために家路を急ぐ。そのほかに何をしているときが楽しいかと尋ねると、彼は即座にこう答える。「裏庭でバーベキューをしているときだ。サラダや肉を食べて、ちょっと赤ワインを飲む。子どもたちはときどきやってきてソーセージを食べたりするが、それ以外は私たち大人が話をしている横で遊んでいる」

ハンネとフレディーは、16年前にオルポアのアミューズメント通りジョムフル・アネガデで出会った。フレディーは男友達と、ハンネは女友達と一緒にいた。その最初の夜は大した触れ合いがなかったが、2、3日後に会う約束をす



フレディーとハンネは家事を分担している。



フレディーの得意な料理の一つはピザだ。

るには十分だった。そして、デートするようになった。「私たちが出会ったのは、北ユトランドの若者のほとんどがパートナーを見つける場所だった。最初はあまりフレディーに注目していなかったけど、再会したときに話をするようになった」とハンネは言う。

ハンネは技術助手の仕事を見つけるためにフレデリシアからオルポアに移ってきた。しかし、技術助手の将来の見通しは暗かったので、ハンネは、いわゆる社会・医療助手になるための訓練プログラムを受け始めた。それは自分が考えていた職業ではなかったが、彼女は最後まで続けた。現在、彼女は障害児用のプールで助手として働いている。

家事の分担

ハンネとフレディーは責任と家事を分担し、家庭生活の

特 集

デンマーク

喜びを分かち合っている。2人で子どもたちをいろいろな活動に連れて行ったり、迎えに行ったりしている。フレディーは掃除機の使い方を知っている。2人とも個別に、あるいは一緒に買い物をする。食事を作る回数はハンネのほうがフレディーよりも多いが、彼の得意な料理はピザとデンマーク名物の「バーニング・ラブ」で、食事を担当するときはこれを作る。

全体として、夫妻は今の生活条件に十分に満足している。「他のほとんどの人々と同様に、税金が高すぎるとは思うが、その一方で、だれもがほとんど無料で病院へ行けるのはうれしい。高額な税金は福祉コストの一部だと思っている」

娘たちの将来に関する2人の希望は、あまり変わらない。フレディーは、子どもたちがよい教育を受け、健康で素晴らしい生活を送ってほしいと願っている。娘たちが正直であることも非常に重要だと考えている。彼はごまかしがあまり好きではない。どんな仕事に就くかは本人たちが決めることだ。押しつけたくはない。

ハンネも同じ考えだが、彼女は子どもたちに上級教育を受けてほしいと思っている。彼女自身、かつて建築家になることを夢見ていた。

仕事は特権

ハンネは労働組合員だが、活動はしていない。フレディーは、かつて職場で労働組合活動に携わり、組合の基礎コースを何度か受講したことがある。しかし子どもができると、組合活動には焦点を当てないことを選んだ。だが、今もネレソンピユ支部の総会に出席し、DESMIで実施される活動に関心を抱いている。彼は組合に興味を持つ家庭で育った。母親は勤務先で職場委員を務めていた。

セシリーとクリスティンがハンネとフレディーの生活中心であることは間違いないが、だからと言って、フレディーにとって仕事は、生活における重要な活動を実施するために果たさなければならない義務というわけではない。

「私にとって、仕事は特権。自転車で工場へ行って、職場で働く特権だ。同僚のほとんどは何年も前から知っている人たちだが、何人かは仕事を辞めた。私は会社のボーリング・クラブにも入っていて、毎週土曜日の午前中にボーリングをしに行く。たとえ宝くじで300万クローネ当てても、やはり仕事に行くだろう。外へ出て他の人たちと話をする必要がある。それに、仕事そのものも好きだ。実に具体的で、それが気に入っている。作業の進展を見ることができて、全体の一部になれる」とフレディーは言う。

デンマークで新しい3年協約

2月1日、国際金属労連（IMF）加盟組織のデンマーク産業中央組織（COインダストリ）と使用者連合団体が、デンマークの産業労働者22万人を対象とする労働協約を締結した。

この3年協約は、年金、育児休暇、疾病手当といった社会問題に焦点を当てている。これとは別に、毎年、企業レベルでも賃上げを取り決めている。

伝統的に、賃上げ全体の約3分の1が全国協約で、残り3分の2（前期は4分の3に迫っていた）が企業レベル交渉で取り決められる。新協約では、推定コストは年間1%弱で、これに企業レベル交渉の結果が上乘せされる。

全国協約の主な要素は以下のとおりである。

有給公休日の支給額を賃金の3.5%から4.0%に引き上げ

有給育児休暇を男女ともに14週間から20週間に延長

賃金全額支給の病気休暇を5週間から9週間に延長

現在1時間当たり88.40デンマーク・クローネ（約

11.80ユーロ、15.19米ドル）の最低賃金を2004年、

2005年および2006年の3月1日に2.25デンマーク・

クローネ（約0.30ユーロ、0.386米ドル）増額

この協約は、民間部門の交渉がすべて終了し、承認投票が終わったあと、2004年3月1日前後に発効する予定である。

カサリン・リバス

トルコ金属労組に新役員

イスタンブール(トルコ) :
トルコ金属労組は2003年12月にイスタンブールで大会を開き、新役員を選出した。

アドナン・セルダログル新会長は、セカルヤのセグマンで働いていた1982年に初めて労働組合オートモビル・イス(独立自動車労組)に加入した。オートモビル・イスは、1993年に合併してトルコ金属労組になった二つの組合のうちの一つだった。2000年、セルダログル氏は合併後の組合でゲブゼ支部の支部長に就任した。



セルカク・ゴクタス新書記長は、シーメンス・トルコで働いていたときに初めて労働組合代表に選ばれた。1991年にオートモビル・イスのブルサ支部の支部長に選出された。

トルコ金属労組の新指導部は、特に安全衛生問題と合同訓練・組織化活動に関して、同労組の国際関係を改善したいと考えている。また同労組は、多国籍企業やその子会社との間で抱えている共通の問題に取り組むに当たって、海外の組合との協力強化にも努める予定である。



訃報

ジョン・クリステンセン氏

ナンジェモイ(米国メリーランド州) : 本誌読者の中には、ワシントンDCにある全米自動車労組(UAW)国際問題局のジョン・クリステンセン国際代表をご存知の方が少ないだろう。2月16日、ジョンは多臓器不全のため57歳で亡くなった。夫人と2人のお嬢さんがあとに残された。

ジョンがUAWに加わったのは40年前、ニューヨーク市にあるイーグル・エレクトリック社の同労組支部の組合員になった1964年のことだった。まもなくニューヨーク市から生まれ故郷のウィスコンシン州ラシーンに帰り、農機具メーカーのマッシー・ファーガソンで地方支部の主任代表に就任、のちに同支部の支部長に選ばれ、1978年にワシントンのUAW国際問題局スタッフに任命されるまで同職を務めた。

ジョンが主要な役割を果たしたのは金属労働者のための国際連帯努力の分野であり、国際金属労連(IMF)は彼のことをよく知っていた。彼は軍事独裁政権時代のブラジル、「連帯」組合運動初期のポーランド、アパルトヘイト体制下の南アフリカ、組合活動を理由に投獄された労働組合役員を自ら訪ね、その釈放を勝ち取るために助力した韓国など、各国の労働者・組合活動家の支援を組織化した。

ジョン・クリステンセン氏の訃報を聞いて、マルチェロ・マレンタッキIMF書記長は、ジョンのことを次のよう



に表現した。「実に寛大な人物で、純粋な労働者であり、労働者とその家族にとって重要なあらゆる問題について他の労働者と議論する機会を決して逃さなかった。ジョンは真の社会主義者で、世界の労働者階級に自分を重ね合わせていた。会合や会議で一緒に『連帯よ永遠に』を歌えなくなるのは寂しい。彼の人生は短すぎたが、彼の思い出は永遠に残るだろう」

UAWは4月2日にワシントンで追悼式「国際連帯よ永遠に ジョン・クリステンセンの人生を祝福して」を計画している。

新しい現実に対応する

鈴木勝利氏は、総勢200万人の全日本金属産業労働組合協議会（IMF-JC）議長であり、国際金属労連（IMF）執行委員も務めている。このインタビューで同氏は、グローバル化に関する個人的な解釈を示し、日本が定年を廃止する必要がある理由を説明する。

ジェスパー・ニルソン記

日 本では失業率が5.6%に達し、マスコミと社会全体が警戒心をもって反応を示している。これは多くのヨーロッパの労働組合員なら、いや、おそらく欧州諸国政府も安心するであろう数字だが、日本にとっては異常である。この国は数十年間にわたって絶えず揺るぎない成長を達成し、失業はほとんど存在せず、労働市場は世界の他の地域で聞いたことがないほど安定していた。その後、15年前に状況が一変した。さらに、巨大な隣国・中国の急速な経済開発に伴って日本製品は競争優位を失っている。

Q: 鈴木議長、なぜ日本はこのような苦境に陥ってしまったのでしょうか？

A: これにはいくつかの理由があります。1980年代、日本では実体を伴わないまま経済が拡大しました。このバブル経済は1993年に崩壊し、その影響が今なお見られます。もう一つの理由は、日本の産業が非常に長い間、国際競争から手厚く保護されていたことです。

現在、私たちはこの競争に直接さらされています。非生産的企業が前進しようとするれば、結果的に余剰労働者が解雇されることとなります。

Q: では、これは避けられない事態であり、必然であるとは？

A: ある意味で、歴史は繰り返します。第二次世界大戦後、値段は安いが高品質の日本製品が欧米市場に押し寄せました。今では、韓国、台湾、中国から安価な製品が日本に入ってきています。これらの製品が低価格であるため、日本企業の競争力が低下しています。したがっ

て私たちは、中国をはじめとする発展途上国に生産拠点を移転することによって、これに対抗しようと努力しています。

これに関して私自身の意見をお話したいと思います。グローバル化のおかげで、あらゆる国々が平等に力をつけて生活水準を高め、全員が平等になれる可能性があります。日本の観点から見れば、我が国は経済成長を達成して経済大国になりました。中国その他のアジア諸国もあとに続くでしょう。そして、その次はたぶんアフリカ諸国です。グローバル化のプラス面は、比較優位が国から国へ移ることだと思います。そして、それがあべき形なのです。

Q: 前向きな考え方ですね。でも、失業中の日本人労働者は違う見方をしているのではないのでしょうか……。

A: 日本政府は、税金を利用して雇用を創出することによって、失業を抑える措置を講じることもできてでしょう。しかし日本は、途方もない財政赤字に悩まされています。IMF-JCは政府に対し、失業を減らすために税金を使って大規模に人々を雇用することを求めてはいません。

けれども政府は、各種新製品の開発など、研究開発投資を支援するうえで果たすべき重要な役割を担っています。これは我が国にとって必要なことです。成熟した製品については、低賃金諸国と競争することはできないし、競争すべきではありません。

そのうえ、日本の産業は新しい革新的な生産方法に取り組みなければならぬ。私たちが支持している一つのモデルは、

多技能労働者が関与する生産の発展です。そのようなモデルは、ファックスやカメラ、プラズマテレビの生産に利用されています。

鈴木勝利氏の略歴

氏名：鈴木勝利

出身国：日本

職業：労働組合議長

所属組織：全日本金属産業労働組合協議会
(IMF-JC)

インタビュー

鈴木 勝利氏



日本は高齢労働者が労働市場にとどまるシステムを導入する必要がある、と鈴木勝利氏は言う。

Q: 具体的に、どのような生産方法なのですか？

A: 伝統的生産では、ベルト・コンベヤーがあって、さまざま
なワークステーションに分かれ、各労働者に一つの職務が割り当てられています。私たちのアイデアは、1人の担当者あるいは小チームが製品の組立全体に責任を負うべきだということです。そして、これはすでに実施されています！ 例えば、キヤノンは中国に外部委託していた製造事業を国内に戻し、現在、5～6人編成のチームが一つの製品の組立に責任を負っています。生産コストは高いけれども、品質が大幅に向上しています。

Q: 失業率が高だけでなく超過労働も多い。パートタイムや短期契約で働く人々、いわゆる非典型労働者がますます増えています。この展開について、どう思われますか？

A: これは国際競争による圧力が原因です。使用者は、競争力を高めるために生産コストを削減しなければなりません。非典型労働者は正規労働者に比べてコストが安く、契約面でも融通が利きます。ご存知のように、日本では正規雇用の従業員を解雇するのが難しいですからね。

Q: では、この事態の展開を受け入れなければならないと？

インタビュー

鈴木 勝利氏

A . 日本の組合は典型労働者だけで構成されており、正規労働者の雇用だけを守ろうとしています。そのため、工場での雇用が不足すると、組合は使用者に「パートタイム労働者や契約労働者を解雇してはどうか?」と言う。これが日本の組合員の態度です。組合員全員が終身雇用の典型労働者であるというだけの理由で。

その一方で、パートタイムで働くほうを選ぶ労働者もいることを忘れてはなりません。正規労働者として雇用されていれば、国内の他の地域への転勤を受け入れたり、長い超過労働に従事したりせざるをえないでしょう。長時間労働をしなくなれば、非典型労働者を選ぶことができます。だから、これは労働者の選択でもある。日本には1,300万人の非典型労働者がいます。彼らの存在があるから、失業率は5.6%にとどまっているのです。

Q . でも、非正規労働者の労働条件は理想にはほど遠いんですね?

A . IMF-JC の意見では、ナショナルセンターである連合は典型労働者と非典型労働者の均等待遇を求めて闘わなければなりません。連合は今度、非典型労働者の時給を典型労働者の最低賃金と同水準にするよう要求する予定です。

Q . これでは八方ふさがりの状況になってしまいます。賃金交渉は企業レベルで実施されますが、組合は非典型労働者を組織化していません。それで、どうやって非典型労働者を援助するのですか?

A . 私たちは産別連合団体として、企業別組合の指導部が企業レベルで措置を講じるよう奨励する責任を負っています。しかし、これは非常に厳しい闘いであり、時間がかかります。企業別組合は、自分たちの組合員を守りたいと考えますから。

Q . 今の展開が続けば今日の典型労働者が明日の非典型労働者になるおそれがある、という主張もあるでしょう。そこで、やはり労働者の集団的利益……

A . ……いや、そうは思いません。多くの人たちは「たとえ同僚が非典型労働者になっても自分は決してならない」と考えるでしょうからね。いかにして非典型労働者や契約労働者、派遣労働者を組織化するかは、IMF-JCにとって重要な問題です。この問題をめぐって討議を始めています。

一つの問題は、パートタイム労働者はさまざまな使用者のもとで働く可能性があることです。この点で、IMF-JC 構成組織で私の出身母体でもある電機連合は非常に進んでいます。電機連合は「ネット組合」構想を利用してパートタイム労働者を組織化しようと試みています。インターネットを通して年1回料金を払えば、給付や互助会、カウンセリング、アドバイスを利用することができます。

パートタイム労働者の大部分が女性であることも心に留めておかなければなりません。非典型労働者を組織化することができれば、女性の組織率が急上昇するでしょう。

Q . ここでも企業別組合レベルに話が戻りますが、企業別組合は当然ながら社外の人々の組織化にあまり関心を持っていません。……一つの道は、理論上の話ですが、一つの部門で複数の強力な産別組合を創出することでしょう。これはヨーロッパや北米などで採用されているモデルです……。

A . 日本の労働市場は垂直的です。一つの会社に採用され、そこで教育・訓練を受け、昇進して最終的に管理層に到達する。組合機構もこれを模倣しているので、企業別組合があるわけです。しかし、労働市場を変えれば、雇用パターンが企業中心から職務中心に変われば、ヨーロッパ式の産別組合が可能になるでしょう。

Q . そうなればいいとお考えなのですが、それが、それとも、それは最悪の事態のシナリオであると……。

A . その方向へ電機連合は進んでいるのです。電機連合の話ばかりですみません。でも、電機連合はこの分野で前進しており、組合員の賃金は次第に年功ではなく職種に基づいて決められるようになっていきます。このアプローチは日本の労働組合運動では一般的ではありません。しかし、他の組合も電機連合のようにならなければ、労働運動の未来はないでしょう。

Q . 失業について話してきましたが、20~30年先に目を向ければ労働力不足が最重要問題になるでしょう。日本では劇的な人口変動が起こっており、そのころまでには世界一の高齢化社会になっているでしょう。これはあなたの方にどんな課題を突きつけていますか?

“
低賃金諸国と競争することはできないし、競争すべきではない”

インタビュー

鈴木 勝利氏

A . 高齢労働者が労働市場にとどまるシステムを導入する必要があります。年齢にとられない労働市場を創出しなければなりません。もっと多くの女性に働いてもらう必要もある。さもないと日本経済は急速に衰退するでしょう。

Q . 一つ確認させてください。IMF-JCの念願の目的は定年の引き上げなのですか？

A . 定年の廃止です！ 人々が働きたいだけ、働けるだけ、働き続けられるようにすることです。

Q . ヨーロッパでは イタリア、スペイン、ポルトガル、フランスでは、定年を1年か2年引き上げる案に反対して数十万人の労働者が集会を開いています。でも、あなたの考え方は違う……。

A . 日本人の心理は異なります。日本人は死ぬまで働き続けたいと考えている。しかし、すべての会社が70歳の人々を雇いたがるわけではありません。だから、社会全体がここで非営利組織が重要な役割を果たさなければならぬ。高齢労働者が働ける場所を生み出さなければならぬ。

Q . 外国人が日本へ働きに来られるようにして労働力不足を緩和することについては？

A . この問題は大きな悩みの種です。現在すでに、使用者は外国人労働者の輸入を促進していますが、けれども、外国人労働者の存在と高い失業率が結びつけられて、ナショナリズムを駆り立てることになる。私はそれを心配しています。

労働運動内部でも意見が分かれています。賛成する者もいれば、反対する者もいる。IMF-JC内部でさえ、コンセンサスが得られていません。でも現状を見ると、好ましい状況にあるとは思えません。大勢の違法労働者が、劣悪な条件のもとでひそかに働いています。外国人労働者が必要なら、これらの人々を合法的労働者として認め、公正に取り扱う必要があります。

Q . また中国問題に戻りますが、中国の経済力の高まりを脅威と見ていますが、それとも機会と見ていますか？

A . 何も手を打たなければ、中国は私たちにとって脅威以外の何物でもありません！ 中国がパートナーになるためには、不公正な経済・政治システムを改め、労働者に基本的権利を与えなければなりません。中国には独自の経済システムがあり、それを私たちが変えるのは難しいでしょう。でも、不可能ではありません。日本では、何とか労働時間を短縮して賃金を引き上げることができましたが、それは欧米諸国から圧力が加えられたからにほかなりません。

Q . 連合によれば、中国はもともと日本製品の最大の輸入国になります。雇用創出という点では、これは日本にとって一つの可能性ですね。

A . ええ、中国市場は大きい。うまくいけば、中国と日本との分業が可能です。将来は、NAFTAや欧州連合のような経済ブロック、日本と中国を含む東アジア経済ブロックを設立すべきでしょう。

Q . IMF-JCは中国の労働組合と接触しているのですか？

A . 歴史的にも地理的にも、日本は中国と非常に密接に関連しています。日本の組合は中華全国総工会（ACFTU）と接触しています。組合員の交流によって、お互いのシステムやアプローチなどを研究できるようにしています。対話も続けています。

多くの企業が、アメリカ、ヨーロッパ、日本の多国籍企業が、中国に投資しています。ACFTUが独立性の面で問題を抱えていることは知っています。しかしACFTUは、それらの多国籍企業で働く膨大な人数の労働者を組織化している。真の組合とは何か、民主主義とは何かをACFTUに教えるのは私たちの責任だと思います。

Q . 他の多くのIMF加盟組織は、必ずしもこのアプローチに同意しないでしょう。

A . 分かっています。新しいものは、いつも抵抗に遭う。でも、私たちはACFTUとの対話を続けるつもりです。IMFは、例えばACFTUをオブザーバーとして国際会議に招待するなど、中国に対するアプローチを変えるべきだと思います。これはACFTUに学習させる一つの方法です。もちろん、私たちとしてもACFTUのIMF加盟を検討しているわけではありません。それはまだずっと先の話です。

“
何も手を打たなければ、
中国は私たちにとって
脅威以外の何物でもない”

進展する船舶解撤プロジェクト



● IMF南アジア地域事務所
ニューデリー

ムンバイ（インド）：
「インドの船舶解撤産業における金属労働者の組織化」に関する国際金属労連（IMF）パイロット・プロジェクトが、ムンバイの現場

で計画どおりに進んでいる。このプロジェクトは、労働者に一定の基本的サービスを提供するとともに組織化への意欲を与えることによって、これらの労働者が直面する基本的問題に取り組むものである。

12月、労働者に飲料水を供給するために二つの水タンクが設置された。今では救急サービスも待機しており、ムンバイのすべての船舶解撤現場を対象に救急箱も設置された。もう一つの具体的な成果は、900人を超える労働者が血液型を確認するための検査に参加したことである。60人

の労働者が応急処置の訓練を受けた。

「プロジェクトは予想以上に好調なスタートを切った。労働者たちは非常に熱烈な反応を示している。だが、適切な労働者組織の設立は、はるかに困難な任務になるだろう」と、このプログラムを担当するデービッド・セリグソンIMFコーディネーターは言う。



このパイロット・プロジェクト 船舶解撤労働者 写真：N・A・キッペンブレイクは、3月に評価される。ムンバイからアランとソシヤのより大規模な現場に範囲を広げる包括的プロジェクトは、7月に開始する予定である。

危機にさらされる雇用

オーストラリア：オーストラリア製造労組（AMWU）によれば、先ごろ締結された米豪貿易協定が原因で、オーストラリアでは数千人分の雇用が危機にさらされている。AMWUは、自動車・自動車部品関税の撤廃が自動車労働者に打撃を与えることを特に懸念している。差し迫った関税引き下げの影響を受ける分野として、そのほかに電気設備・器具、加工金属製品、医療・科学機器、非電気機械が挙げられる。

「アメリカの製造業は、より多額の技術投資を行い、

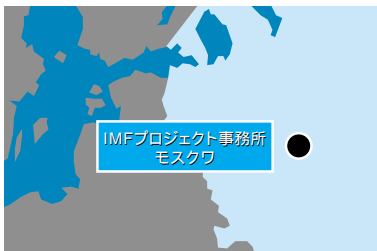
規模の経済が非常に大きく、現在米ドルが下落しているため、オーストラリアの製造業よりもはるかに優位に立っている」とAMWUは言う。



● IMF東南アジア・太平洋地域事務所
クアラルンプール

アウトバスで組織化

トリアッティ（ロシア）：国際金属労連（IMF）は、トリアッティ市とアウトバス社を公式訪問した。同社は従業員数が12万人を超え、ロシア自動車産業で最大の企業である。



● IMFプロジェクト事務所
モスクワ

マルチェロ・マレンタッキIMF書記長はアウトバスの組合活動家と会談し、団体交渉、訓練・教育、社会プログラム、国際活動など同労組の活動について

討議した。

IMF書記長は、IMFの目的・目標の概略も説明した。

アウトバス労組はロシア自動車・農業機械労組（AFW）に加盟し、組合員15万人（アウトバスおよび下請会社の従

業員、年金生活者、学生）を組織化しており、うち45%が女性である。平均年齢は38歳で、36%が30歳未満である。

この会合で特に注意を払ったのは、2001年にトリアッティに設立されたゼネラル・モーターズとアウトバスの合併事業だった。現在、この合併事業で雇用される800人は組合員ではなく、労働組合のオルグは施設への立ち入りを認められていない。IMFはこの点で援助しているが、AFWは年内に問題が解決すると自信を持っている。

2003年、トリアッティ工場では76万台を生産した。同社はカザフスタン、ウクライナ、ウルグアイ、それにロシア国内の他の2工場にも自動車キットを供給している。全アウトバス施設が昨年生産した自動車・キットの総数は110万台に上った。

This is the IMF

国際金属労連 (IMF) は金属産業における労働者のための組織である。1893年に創設されスイス・ジュネーブに本部がある。現在IMFは100ヶ国、200組織、2,500万人の金属労働者を代表している。

IMFは世界中で金属労働者の活動を強化すべく努力している。2001年の世界大会で採択されたアクションプログラムは、以下の4つの主な項目から構成されている：新しい経済システムへの転換、未組織労働者の組織化、国際連帯強化、人権・労働組合権のための闘い。

IMFの最高決議機関は世界大会で4年に1度開催される。その間、隔年ごとに全加盟組織の代表が参加して中央委員会が開催される。執行委員会は中央委員会で選出された18人の委員によって構成され、通常年に2回開催される。

IMF本部の事務所はスイス・ジュネ

ーブに置かれ、世界的な活動は地域事務所のネットワークで調整されている。

東部・南部アフリカ：南アフリカ・ヨハネスブルグ

南アジア：インド・ニューデリー

東南アジア：マレーシア・クアラ Lumpur

ラテンアメリカ・カリブ海地域：チリ・サンチャゴ

近年IMFはアフリカ、アジア、ラテン・アメリカの地域・サブリージョナル機構を強化している。これら3地域全体で11のサブリージョンが定期的に会合を持っている。いくつかの国ではIMF加盟組織が「国別協議会」と呼ばれる組織を形成している。

特別な産業部門の活動を調整するために、IMFには以下の産業別部門がある：航空宇宙、自動車、電機・電子、機械金属、造船、鉄鋼、非鉄金属、加えて作業編成のための作業部会がある。



【IMF 地域事務所連絡先】

南アジア地域事務所
(SOUTH ASIA)
Linz House
159-A, Gautam Nagar
NEW DELHI 110 049
INDIA
tel: (91/11) 651 4283
fax: (91/11) 685 2813
E-mail: sao@imfmetal.org

東南アジア地域事務所
(SOUTHEAST ASIA)
No. 10-3, Jalan PJS 8/4
Dataran Mentari, Bandar Sunway
46150 Petaling Jaya
Selangor Darul Ehsan
MALAYSIA
tel: (60/3) 56 38 7904
fax: (60/3) 56 38 7902
E-mail: seao@imfmetal.org

IMF本部 (ジュネーブ) の住所は
2ページ参照

ラテンアメリカ・カリブ海地域事務所
(LATIN AMERICA & THE CARIBBEAN)
AV.Providencia 2019
Oficina 42-B
Providencia
SANTIAGO
CHILE
tel: (56/2) 655 04 74-655 04 77
-655 04 78
fax: (56/2) 655 04 70
E-mail: lacro@imfmetal.org

ラテンアメリカ・カリブ海メキシコ事務所
(LATIN AMERICA & THE CARIBBEAN MEXICO OFFICE)
Ignacio Mariscal No. 45-101,
Colonia Tabacalera
CP 06030 MEXICO D.F.
MEXICO
tel: (52/55) 55 35 36 53
fax: (52/55) 55 35 26 14
E-mail: lacromexico@imfmetal.org

東部・南部アフリカ地域事務所
(EAST & SOUTHERN AFRICA)
Physical address:
10th Floor
The Braamfontein Centre
Jorissen Street
Braamfontein
JOHANNESBURG 2001
REP. of SOUTH AFRICA
Postal address:
P.O.Box 31016, Braamfontein 2017
REP. of SOUTH AFRICA
tel: (27/11)339 1812-339 1825/
6-339 1832
fax: (27/11)339 4761
E-mail: esao@imfmetal.org

CIS プロジェクト事務所
(PUROJECT OFFICE CIS)
Room 211
Str. 2, d. 13, Grokholsky per.,
129010 Moscow
RUSSIA
tel: (7/095) 974 61 11
fax: (7/095) 974 16 22
E-mail: pocis@imfmetal.org

行事日程表

4 月

- 5日 IMF事務・技術職労働者作業部会 (スイス・ジュネーブ)
- 13日 IMF中・東・東南欧女性会議 (スロバキア・プラティスラヴァ)
- 14日 IMFCIS・バルト諸国サブリージョナル会議 (スロバキア・プラティスラヴァ)
- 15 - 16日 IMF中・東・東南欧リージョナル会議 (スロバキア・プラティスラヴァ)
- 15 - 16日 IMFアンデス協定諸国サブリージョナル会議 (ベネズエラ・クマナ)
- 16 - 17日 IMF東アジアサブリージョナル会議 (中国・高雄)
- 19日 IMF - IMF-ROCC組織強化作業部会 (中国・高雄)
- 23 - 24日 IMF国際枠組み協約 (IFA) セミナー (日本・東京)
- 30 - 1日 IMFアジア造船作業部会 (シンガポール)

5 月

- 12日 IMF財政委員会 (スイス・ジュネーブ)
- 12 - 13日 IMF執行委員会 (スイス・ジュネーブ)

6 月

- 7 - 18日 IMFサマースクール (スイス・ジュネーブ/ニヨン)
- 8 - 10日 IMF世界自動車会議 (アメリカ・ミシガン州ディアボーン)
- 10 - 11日 GMアクション・グループ (アメリカ・ミシガン州デトロイト)
- 14 - 15日 IMFカリブ海サブリージョナル会議
- 15 - 17日 IMF編集担当者会議 (カナダ・モントリオール)
- 24 - 25日 IMFラテンアメリカ・カリブ海地域調整委員会 (チリ・サンチャゴ)

「IMFの行動は、うまくいけば大きな影響を及ぼす」

クラウディア・ラーマンIGメタル国際書記は、複数の大陸で組合強化プロジェクトに関与している。だが、彼女の活動の重要な部分は、ドイツ国内で実施されている。「国際問題は全国組合で十分に優先されていない」と彼女は言う。

フランクフルト（ドイツ）：先ごろ開かれた国際金属労連（IMF）会合の冒頭に、議長は出席者を順番に紹介しながら、「クラウディアについては、今さら紹介する必要はない」と言った。そして、他の代議員たちも同意した。まだ若いにもかかわらず、彼女は11年以上にわたって国際労働組合活動に加わってきただけでなく、国際舞台において特に活発で歯に衣着せずものを言う労働組合役員の1人でもある。

クラウディアさんは、ドイツの金属労組IGメタルで活動する複数の国際書記の1人である。同労組は林産労働者や繊維労働者も組織化しているが、クラウディアさんの担当は金属部門であり、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ、スカンジナビア、スペイン、イタリア、ポルトガルに特に注意している。彼女の仕事の大部分は、全世界の金属労組とIGメタルとの二者間プロジェクトに関係がある。

「いくつかの大規模プロジェクトを実施している。一つは韓国に関係があり、私たちは韓国の労働組合が産別組合に移行するのを援助している。もう一つの大きなプロジェクトは、ブラジルで全国金属総連合（CNM/CUT）と一緒に実施している。私たちは多国籍企業のポッシュとティッセングループで、労働組合ネットワークを確立するためにだけでなく、労使を対話に関与させるためにも努力している。南アフリカでは、南アフリカ全国金属労組（NUMSA）と一緒に自動車産業でプロジェクトを運営している」

クラウディアさんの仕事の重要な部分はドイツ国内で実施されており、国際プロジェクトを調整するとともに、これらのプロジェクトに関して出資機関や工場レベルの活動家と協力している。この活動によって、彼女は自分のルー

ツと結びついている。「西アフリカのプロジェクトにかかわったとき、私はホワイトカラー金属労働者だった。その後、IGメタル国際局に加わるチャンスを得た」とクラウディアさんは説明する。

グローバル化の影響という難題を突きつけられて、IGメタルは、もっと多くの人々を国際問題に関



クラウディア・ラーマンさんはIMFとの連絡を担当している。

与させる戦略を採用している。「労働組合は、グローバル・ユニオン・フェデレーション・レベルや全国レベルだけで活動することはできない。工場レベルや地域レベルも引きつけなければならない」とクラウディアさんは言う。

これは口で言うほど容易なことではない。「人々は関心を持っていないわけではないのだが、処理する必要のある差し迫った身近な日常の問題を数多く抱えている。けれども、腹が立つときもある。他国の人たちが生きるために闘っているのに、ドイツ人は条件について不満を述べている！」

具体的な成果を求めるクラウディアさんの傾向は、IMFに関する彼女の評価にも表れている。「会合では抽象的な議論ばかりで、文書が作成されても実行に移されないことに不満を感じるときがある。一方、国際連帯が展開された

ときには、人々が結びつき、具体的な成果がある素晴らしいことだ！ 韓国の労働組合幹部らが釈放された例のように、あるいはブラジルのマーレで先ごろ紛争が解決した例のように、IMF行動は実際に影響を及ぼしている」

ジェスパー・ニルソン

クラウディア・ラーマンさんの略歴

氏名：クラウディア・ラーマン
年齢：35歳
出身国：ドイツ
居住地：フランクフルト郊外
職業：国際書記
所属組織：IGメタル、組合員数255万人
趣味：「仕事以外の時間は家族と過ごしている」